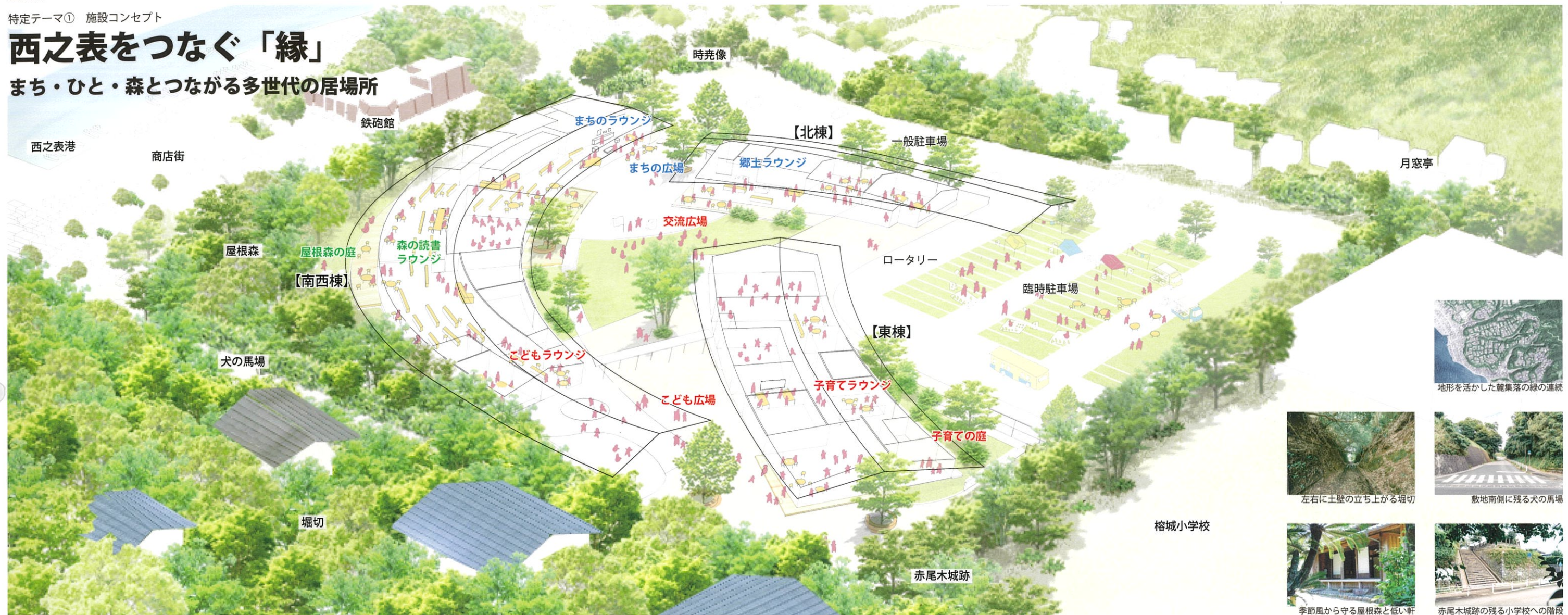


特定テーマ① 施設コンセプト

西之表をつなぐ「縁」

まち・ひと・森とつながる多世代の居場所



実施方針1 目的や課題の理解度

開かれた「縁」が、まち・人・森をつなぐ

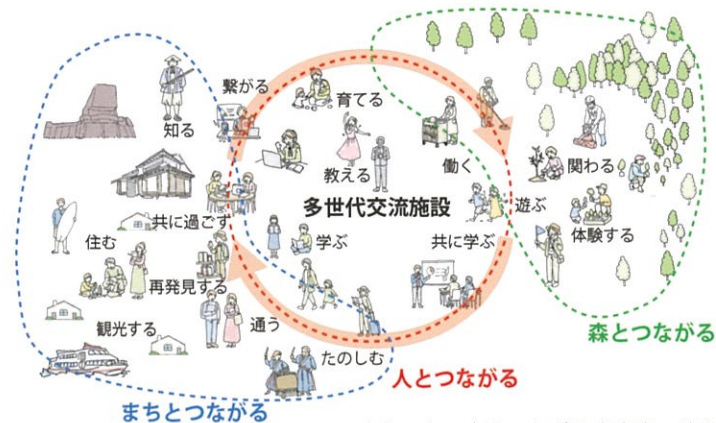
西之表は日本武家社会最南端の地として知られ、敷地はまさに種子島の歴史と文化の中心であった内城跡です。この場所が多世代の拠り所となり、豊かな暮らしを後世へと共に受け継いでいくことが望めます。

私たちは、多世代交流施設を「縁」のような場としてつくります。「縁」とは、内外の中間領域で、誰でも気軽に訪れ、時には一人静かに、時に語らいながら過ごすことができる開かれた空間です。

開かれた「縁」によって、新たな出会いや交流、まち・人・森とのつながりを生み出します。



開かれた「縁」空間



まち・人・森とつながる出来事の連環

まちとつながる

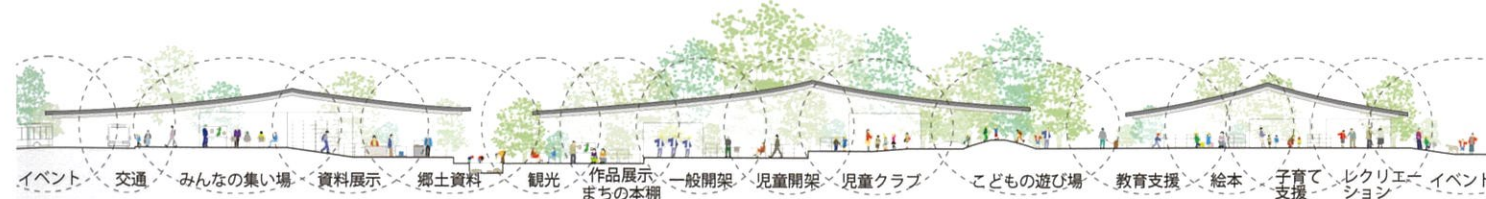
この場所に折り重なっている歴史と文化を大切に、周辺の建築や文化的施設と敷地を超えて連携しながら、点から面で魅力を発信し、まちづくりの拠点とします。さらに、中心市街地の活性化に留まらず、大字地域も含めた西之表市全体の活性化へと導きます。

人とつながる

こどもから大人、高齢者、障がいのある方など、全ての方の居場所となり、多様な関わり方を許容し、人と人の関係を育む場所にします。市民はもちろん、訪れる人に魅力を放ち、遠く離れて暮らす人でも、主体的に関わることが出来る仕組みをつくりまします。

森とつながる

麓集落の「屋根森」に代表される緑が連続する歴史的景観を再評価及び継承します。また、先代が植えた森の木材を可能な限り活用することで、自然の循環の中に人の営みを今一度組み込み、建築プロセスを通して森の恩恵を後世へと伝えていけるよう努めます。

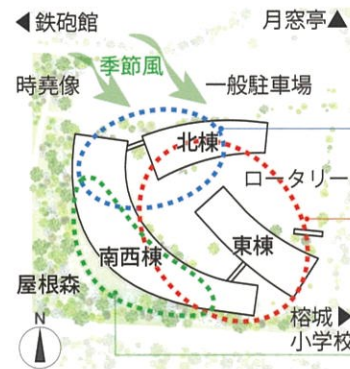


開かれた縁によって横断的なつながりを生み出す

特定テーマ① 施設コンセプト

屋根森に抱かれ、ゆるやかに場を囲む3つの棟

地形を活かした麓集落の建ち方を継承する
風や日差しを防ぐ屋根森に、低い軒を寄せて建つ種子島の伝統的な空間構成を継承します。南西棟を屋根森に寄せて配置し、北棟と東棟で強い季節風から守られた広場を囲みます。建築と地形と外構が一体となって開かれた居場所を守る、この土地ならではの原風景をつくりまします。



3つの棟を跨いだ多様なつながりを生む
「縁」のような空間により、棟を横断した開かれた関係をつくりまします。

- 地域情報の顔をつくり「まちとつながる」**
鉄砲館に近く、まちの情報ステーションとして、郷土資料、市民展示など西之表の魅力を一望できる。
- ゆるやかに広場を囲み「人とつながる」**
各棟は開かれた居場所となり、庭と一体となって交流を生み、多世代が共に過ごせる場となります。
- 屋根森に開いた居場所「森とつながる」**
屋根森に守られた開架を中心とした場。静かな席から活動の場まで、西之表の原風景を背景に展開する。



開かれた軒下空間と多世代の居場所に囲まれた広場



屋根森と深い軒に守られた「縁」のような空間

任意様式（企画提案書）

特定テーマ② 配置・平面計画

周辺施設とつながり、まちへの回遊を生み出す敷地活用計画

計画地が内城跡であった地歴を踏まえ、①周辺文化施設とのつながり、②歴史遺構の保存活用、③気候風土との調和の3つの評価軸から敷地を読み解き、全体を活用する計画とします。

①周辺文化施設とのつながり
A) 駐車場の共用しやすさ
B) 車両動線の利便性、安全性
C) 既存歩行者動線との接続性
D) イベントや事業のしやすさ
②歴史遺構の保存活用
A) 埋蔵文化財調査の影響の最小化
B) 先行調査遺構の活用
C) 近隣ヘリテージとのつながり
③気候風土との調和
A) 既存防風林の活用
B) 強い季節風への対応
C) 西之表ならではの景観の確保

まち歩き起点として

まちの情報発信と駐車場の共用により、周辺文化施設や歴史的街並みへ人の流れを生みます。

特定テーマ② 配置・平面計画

機能特性に応じた3つの棟が連続し多世代の居場所をつくる

相互に連携しやすい機能配置

各棟には周辺施設に関連する機能を向かい合うように配置し、3棟を軒下や屋外空間でつなぐことで、棟や敷地を超えたゆるやかな連携を生みだします

多世代のための多様な居場所

3つの棟は機能の特性に応じて個性ある空間とし、開架やラウンジなどで老若男女誰もが自分の居場所をみつけられるよう配慮します。

全ての機能をつなぐ図書空間

南西棟に開架を集約しつつ、北棟には「まちを知ることのできる図書」、東棟には「こどもが親しむことのできる図書」を配置し、全ての機能が図書によってゆるやかにつながる計画とします。

管理の容易な建築計画

音環境のゾーニング

機能特性に応じて音環境を設定し、利用者が環境を選べるものとします。細長い平面を活かして距離減衰と室配置によって、ゆるやかにゾーニングします。

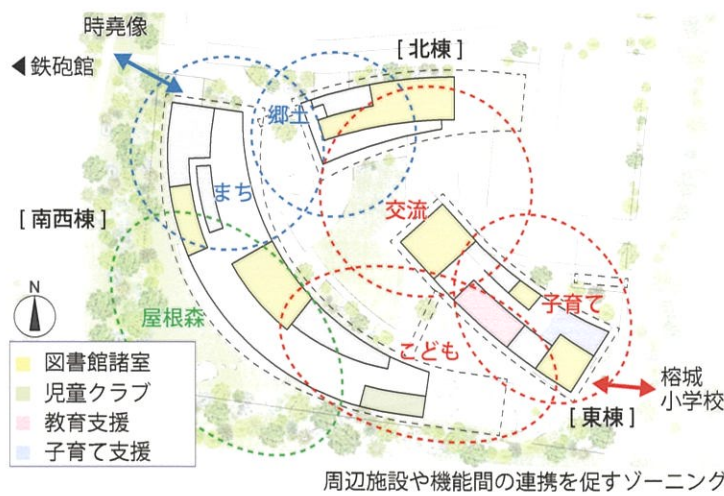


周辺と繋がる歩行者動線

3方向からアクセスでき、また、敷地内に通り抜け動線をつくることで、周辺と繋がる計画とします。

安全を守る車両動線

車両動線は拡幅予定の東側に集約し、小学校の通学動線に影響の少ない、安全性に配慮した計画とします。



まちを知る情報が集まる北棟



こどもたちがのびのび過ごせる東棟

全体に目の行き届く計画

カウンターや事務機能を各棟の入口近くに配置し、入退室や館内全体を確認できる計画とします。棟ごとにも視線が通り、状況把握や機能連携が容易です。

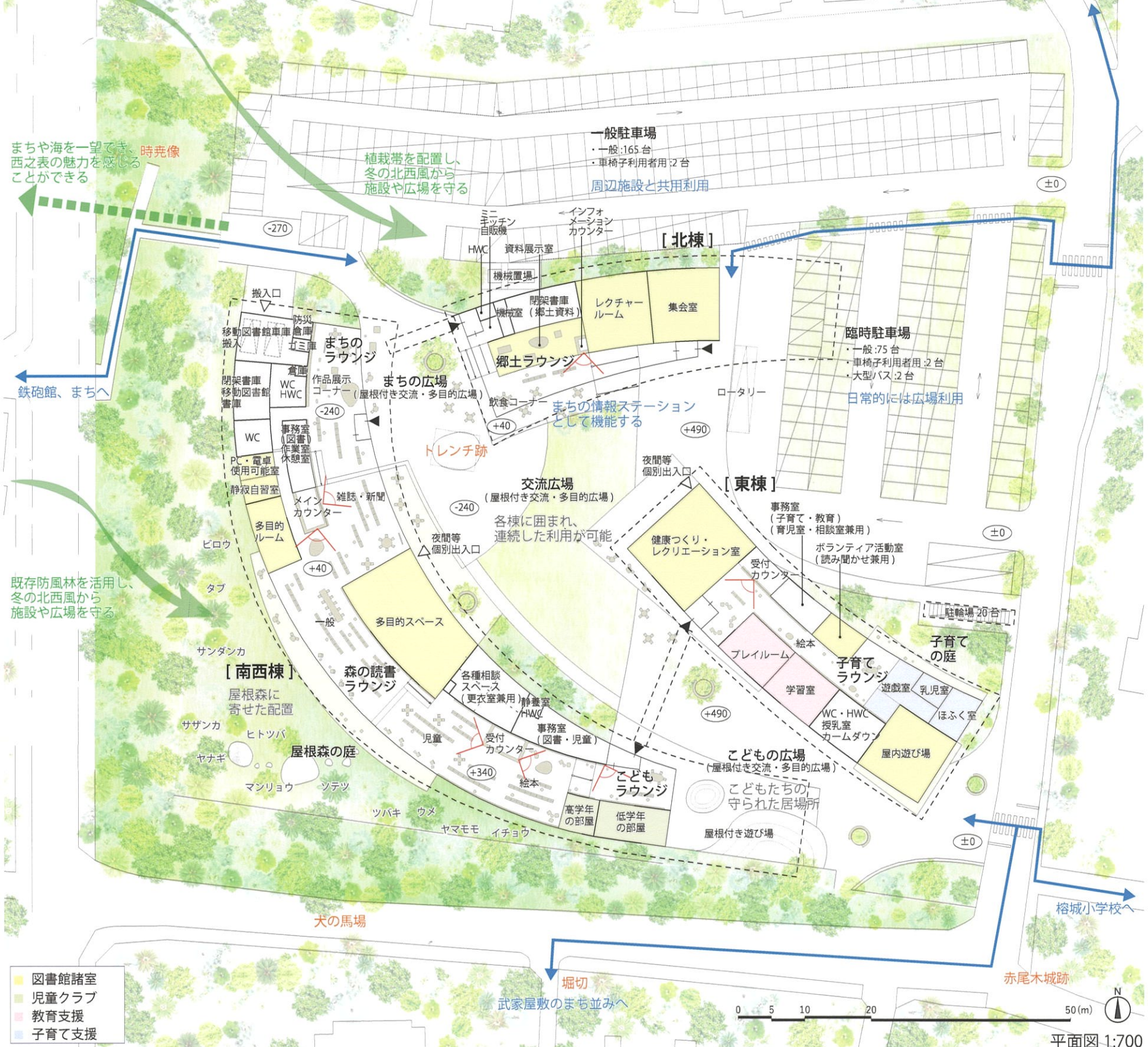
柔軟な運営への対応

分棟とすることで、棟毎に異なる利用時間で運用するなどの対応も可能です。また、貸室は外部側からも利用でき、他機能と独立した運用ができるものとします。

特定テーマ② 配置・平面計画

特定テーマ④ 外構計画

土地と呼応し、内外に多世代の居場所をつくる



特定テーマ② 配置・平面計画

多世代が一日中思い思いに過ごすことのできる居場所づくり



2枚目 / 4枚中

月窓亭へ

格城小学校へ

赤尾木城跡

平面図 1:700

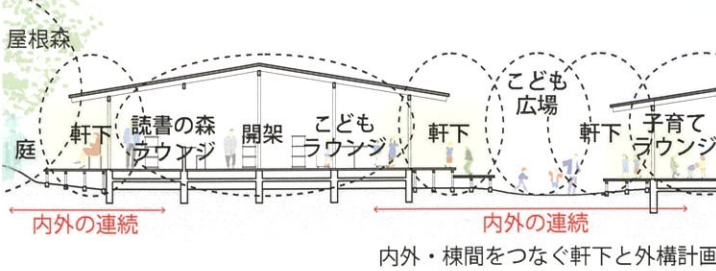
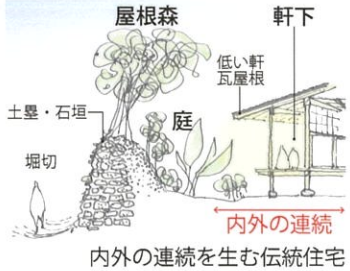
任意様式（企画提案書）

特定テーマ④ 外構計画

各棟をつなぎ半屋外の居場所をつくる軒下空間と地域性を活かした外構計画

多様な過ごし方ができ、各棟をつなぐ軒下空間

広場や庭に面して深い軒に包まれた半屋外空間をつくり、棟と棟をまたいで内外をゆるやかにつなぎます。軒下空間は誰もが寄りつきやすく、車寄せや、屋外遊び場としても機能します。



高低差を活かした場づくり
敷地内の高低差を活かしてゆるやかな起伏をつくり、バリアフリーの中にも変化のある場をつくります。

地域の植生を活かす
西之表の庭園文化を活かし、亜熱帯性の植生や珊瑚石等、西之表らしい外構とし、一年を通じて風景を楽しめる計画とします。



島産材でできた あたたかな空間

特定テーマ④ 設備計画／特定テーマ⑥ コスト縮減

伝統家屋の知恵を継承した環境・設備計画による LCC/LCCO2 の削減

西之表の伝統的な家屋は、自然環境を活かして心地よい暮らしを支えてきました。その知恵を継承し、機械設備になるべく頼らない、環境配慮型の建物をつくります。

深い軒と屋根森の木陰による日射制御

屋根森と近接して軒を深くすることで、一年を通じて強い日差しを遮り、寒い冬の朝にのみ光を取込みます。緑に囲まれた穏やかな窓辺に閲覧席やラウンジ等を配置し、室内側を配架エリアとすることで、図書の日焼けを防止します。

床下からの自然通風と適材適所の空調計画

基礎の通風口から床下に風を取込み換気窓へと導くことで、中間期の自然換気を促します。電気不要の自然換気は災害時や感染症対策にも有効です。大空間は居住域空調、小部屋は個別空調とし、適材適所に効率良く冷暖房します。



特定テーマ③ 構造計画

種子島産の杉材でつくる木造架構の実現に向けて

地域の誇りとなる施設として、構造は木造平屋で計画し、島産材の活用を目指します。既に活用に向けた協力体制の構築を進めており、活用にあたって特にハードルとなるコスト抑制の方法として、右記を検討します。

- ①本土への片道運搬費に離島活性化交付金を活用
- ②量を確保しやすい一般流通材を用いた構造
- ③地域の大工が中心となって施工できる工法
- ④本土での木材加工（防蟻処理等）の簡素化



特定テーマ③ 構造計画・防災計画

木あらし架構を実現する準耐火＋分棟

3,000 m²を超える本施設では、防耐火に関する関連法規を満たすための条件整理が重要です。本提案では、規模・用途を比較の上、「3,000 m²未満の分棟形式」とすると共に、「外壁部分で耐火性能を確保する準耐火構造」を採用することで、木部の耐火被覆や燃え代設計を不要とし、木をあらわしにした空間を合理的なコストで実現します。

特定テーマ③ 構造計画 特定テーマ⑥ コスト縮減

小径の流通材による合理的な架構

4m 以下の一般流通材による木造架構

構造の基本スパンを 4m 以下とすることで、梁材に一般流通材の活用を可能とし、加工性の確保とコスト削減に配慮します。一部大スパンが必要となる部分は、張弦梁を採用し、流通材の組み合わせで柔軟に対応します。

直線材の組み合わせでつくる流線型の架構

ゆるやかな流線型の建物形状は、直線の木材を少しずつずらして並べることで、簡易で合理的に実現が可能です。

特定テーマ③ 防災計画

災害時にも地域を支える拠点となる

炊き出しにも活用しやすい、3つの棟に囲まれた大きな広場

中央の交流広場は駐車場とも一体に利用でき、災害時の炊き出し等、多くの人や車が集まることが可能です。また多目的スペース等の活動室を広場に面して配置しており、避難所としての活用ができます。

災害時の二次災害の防止

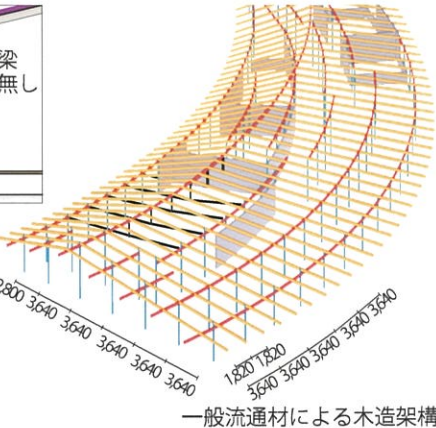
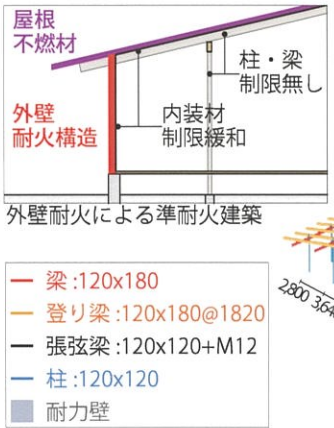
書架を低く抑えて床下にアンカー固定して転倒を防止する等、建物内での二次災害の防止に配慮します。

備蓄や非常電源確保による早期サービス復旧

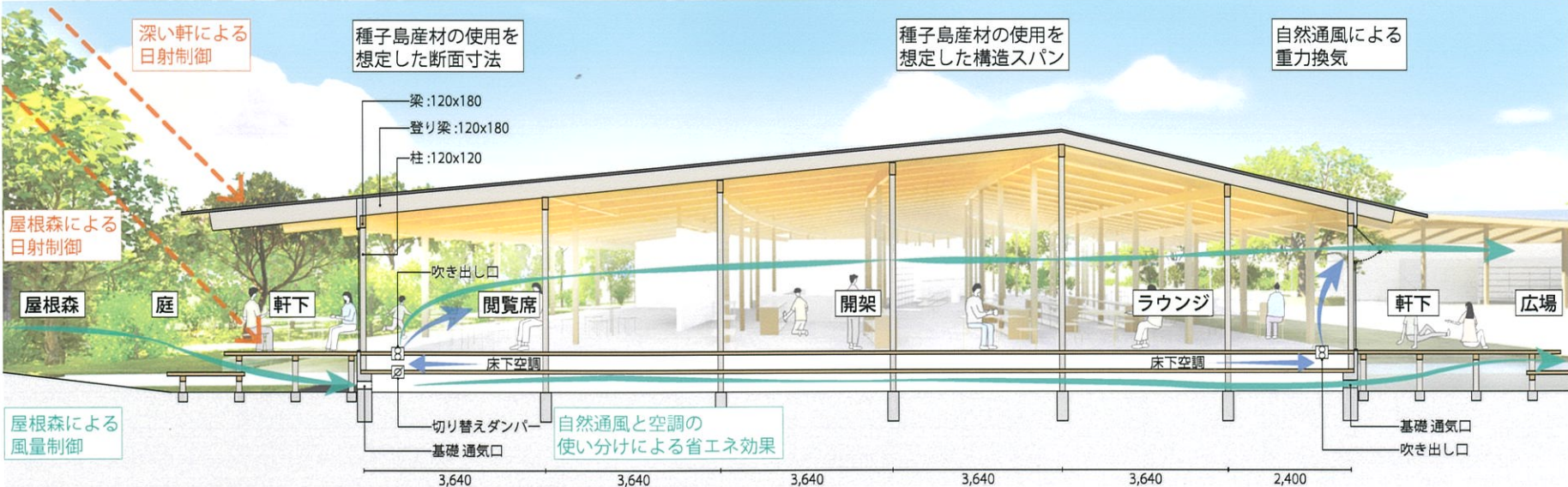
防災倉庫への非常物資の備蓄に加え、ポータブル型の発電機等、効率良い非常用エネルギー確保を検討します。供給エリアを最適化し、早期のサービス復旧に配慮します。

棟形式	1 棟 3,000 m ² 以上	分棟 3,000 m ² 未満	分棟 2,000 m ² 未満
耐火建築	耐火	準耐火	その他
耐火被覆	耐火被覆が必要	耐火被覆や燃え代設計が不要	
内装制限	準耐火以上で内装制限の緩和。 内装へ木材使用可能	木内装の場合は不燃処理が必要	

防耐火の観点によるボリューム比較



3 棟と駐車場とつながり活動しやすい交流広場



経験豊富なチーム体制と地域と一体となって取り組むプロセス

東京一鹿児島県内一西之表市内が密に連携

図書館をはじめとした公共施設の設計実績が豊富な設計・代表者（東京）【A】と、県内の公共施設の設計実績が豊富な設計・構成員（鹿児島県内）【B】、西之表での設計や地域づくりに関わってきた設計・協力（西之表市内）【C】に、各分野のスペシャリストを加えた協働体制により、それぞれの専門性を活かして取り組みます。

【A】設計・代表者 MARU. architecture （東京） （実績）・土佐市複合文化施設 ・松原市民松原図書館 ・南国市立図書館 他		構造 坂田涼太郎構造設計事務所 （東京） （実績）・屋久島町庁舎 ・南国市立図書館 他	
【B】設計・構成員 Dai 建築 DESIGN （鹿児島県内） （実績）・高尾野支所庁 ・伊佐市新庁舎 ・曾於市末吉小学校 他		設備 建築エネルギー研究所 （東京） （実績）・佐川町立図書館さくと ・熊本地震 震災ミュージアム 他	
【C】設計・協力 Lamp （西之表市内） （実績）・子育て支援施設シオンビレッジ ・遠藤家住宅再生 ・池田旅館再生 他		外構 Teton （東京） （実績）・奈義町多世代交流広場 ・益城町震災記念公園 他	
		運営 図書館総合研究所 （東京） （実績）・米百俵プレイス ミライエ長岡 ・阿南中央図書館 他	

特定テーマ⑥ コスト縮減

面積・工法・仕様の合理化による建設費の削減

共用と合理化による面積 1 割削減の実現

設計協議において必要機能を確保した上で、「類似用途や管理諸室の共用」「設備室面積の最小化」等により全体面積を削減します。

素材を活かした最小限の仕上げ

「木架構をあらわしにする」等、素材そのものを活かし、仕上げを最小化します。

地域産材による合理的な構造計画（3 枚目参照）

構造は一般流通材を使用した合理的な架構とし、地元の大工の手で施工可能とします。

現地形を活かし地域の植生を活用した外構

外構は現在の地形の高低差を活かし、残土搬出を不要とします。植栽は既存樹を極力活かし、新規植樹は、育てながら整えます。

特定テーマ⑥ コスト縮減

省エネルギーと運営の合理化による維持管理費の削減

省エネルギー化の徹底（3 枚目参照）

建物の奥行きが浅いことを活かして、自然通風・自然採光を積極的に取り入れます。また、大空間は居住域空調・小部屋は個別空調とし、空調効率を最大化します。

特定テーマ⑥ コスト縮減

鹿児島県内の物価動向の把握と定期的なコストチェックの実施

県内事務所を中心とした実態把握

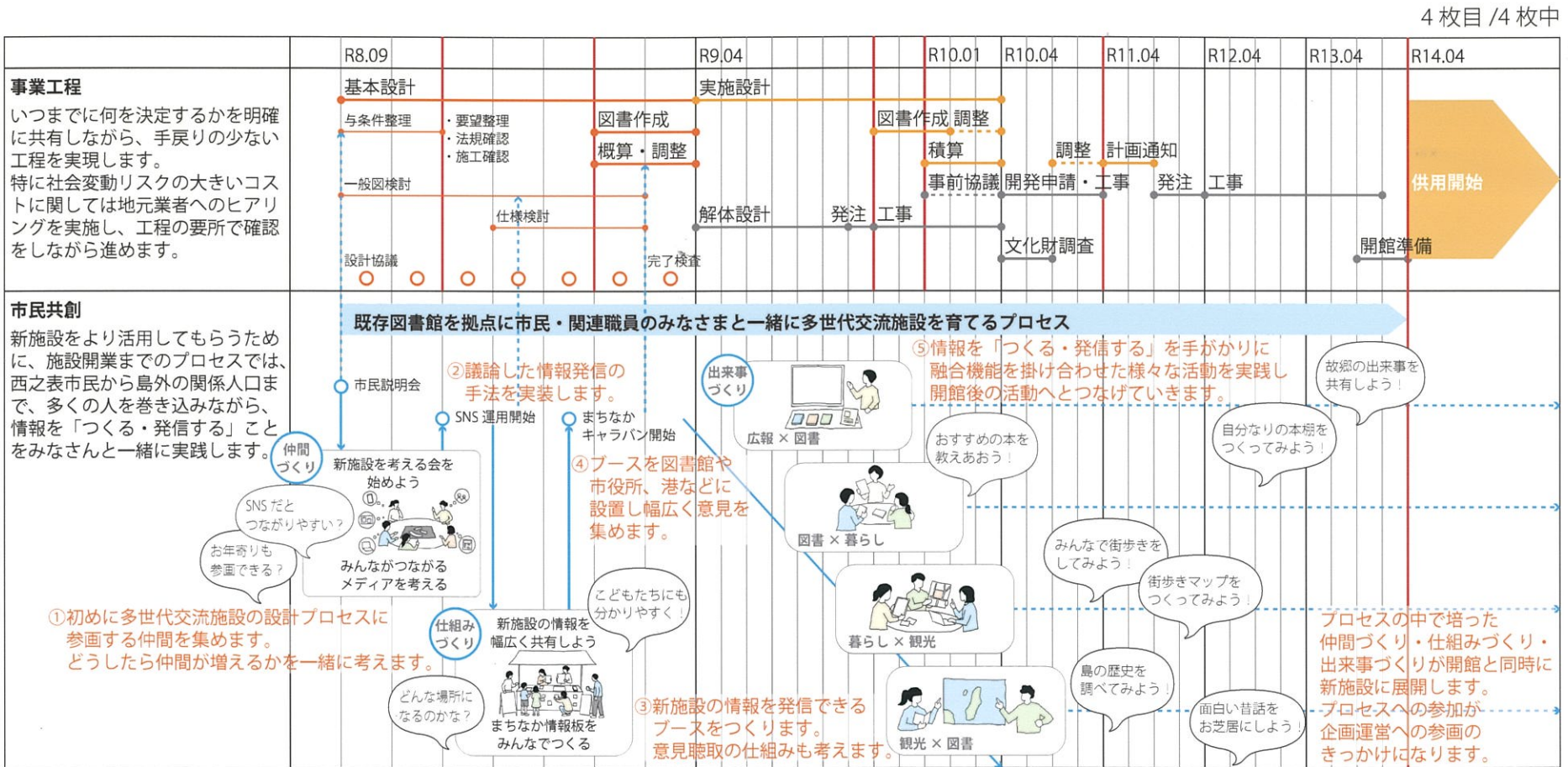
設計・構成員【B】は、離島地域も含めた鹿児島県内の計画に複数関わっており、地元施工業者へのヒアリング等を通じて、物価動向をタイムリーに把握します。

豊富な経験を活かした確実な工程管理

数多くの公共建築に携わってきた管理技術者が中心となって、重要事項の決定時期を確実に押さえた工程管理を実施します。

地域と連携するプロセス

西之表市内で 20 年以上活動してきた設計・協力【C】のネットワークを活かし、地域で活動する方々に設計段階から参加頂きながら、開館後の運営を見据えて取り組みます。



特定テーマ⑤ 地域の手で支える運営体制づくり

参加型の施設づくりによって市民の声を反映する

西之表市との綿密な打合せは勿論、市民説明会や SNS 等を通して広く市民の声を集め、耳を傾け、柔軟に対応しながら基本設計を纏めます。設計・監理期間を、運営主体を育み共に歩む準備期間と捉え、仲間づくり・仕組みづくり・出来事づくりを進めます。また、現在の市立図書館を利用して、運営や活用を試行・検証し、新施設で従事する職員自身にも準備段階から主体的に市民共創に参画してもらい、開館後の運営と活用にスムーズに移行出来るよう伴走します。

多様なスケールで連関する運営と活用

人口減少の時代において、築かれてきたコミュニティを大切にしながらも、関わる人を市民に限定しない運営・活用体制を構築することが大切です。DX 化を前提に便利で効率的な運営体制を設計期間を通じてともに考え、運営に対する将来への不安を拭きます。さらに市民共創によって関係主体を増やし、場所を超えて繋がることで、多角的な視点で地域課題の共有や解決を図り、市民の暮らしの質の向上へと繋がる下記の施設活用計画を検討します。

①一人一人が出来ることを持ち寄り、みんなの居場所をつくる

学生、高齢者、しょうがい者など、利用者が一人ひとりの立場で、「やってみたいこと」や「出来ること」を持ち寄ることのできる場をつくることで、誰もにとっての居場所をつくります。



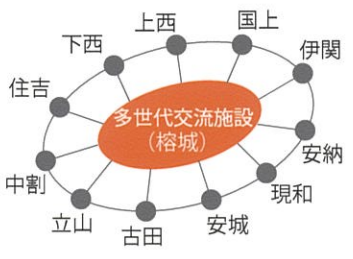
②周辺文化拠点と連携して面的にまちの魅力を発信する

鉄砲館の「コンシェルジュ」や月窓亭の「ひとつばの会」などと連携して、面的に西之表の魅力を発信します。また、ボランティアガイド「あこう」や「じゃろじゃろ」の活動拠点とし、歴史と文化を感じるまち歩きを促し、みなと町の活性化を推進します。これは、市民にとっては、この町に住む誇りにつながります。



③既存のコミュニティと繋がり、通いを生む

西之表の各校区には「人と人」「人と地域」の絆やつながりを大切にする結の精神で支え合う社会的な素地があります。各校区が行っている事業との連携（古田の結の里事業など）やイベントの情報発信等によって、大字地区との間に人の流れを生み出し、市域全体で暮らしを紡いでいきます。



④島の暮らしを発信する

地域おこし協力隊等の活動団体と連携して、島の暮らしや仕事の展示をしたり、職人と共に木工品制作のワークショップを開催するなど、市民が学び楽しむ風景と共に「島の暮らし」を発信し、関係人口を増やし、移住の契機にも繋げていきます。



⑤西之表の出郷者や、まちのファンと連携する

「学生団体のらねこ」や「出郷者の会」など、島を思う気持ちやまちに興味のある方々と連携して、遠くで暮らしていても繋がって出来ることを共に考え実行していきます。

